兵庫県埋蔵文化財情報

ひょうごの遺跡

令和５年（2023）
１月16日発行
107号

(公財)兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
〒675-0142 兵庫県加古郡播磨町大中1-1-1 兵庫県立考古博物館内 TEL.079-437-5561 FAX.079-437-5591 URL:http://www.hyogo-ctc.or.jp/

発掘調査の成果　令和３・４年度

連綿と続く味間地域の集落
　―住吉川右岸遺跡（丹波篠山市味間）

弥生時代後期～古墳時代中期の水路から土器が出土
　―曙町遺跡（神戸市西区曙町）

日本海沿岸の有力家長の墓域
　―初瀬谷・柏谷古墳群（美方郡新温泉町七釜）

集落の北端と中心を発掘
　―上戸田遺跡（西脇市上戸田）

特集

出前授業をお届けしました！
　―曙町遺跡（神戸市西区曙町）

令和４年度発掘調査速報会

ひょうごの掘り出しもの　～第５回～

『南』から来た壺たち　北摂地域出土の輸入陶器

初瀬谷・柏谷古墳群３区２号第１主体部

連綿と続く味間地域の集落

住吉川右岸遺跡（丹波篠山市味間）

住吉川右岸遺跡は、篠山川支流の住吉川の右岸に位置し、白髪岳などの山塊から端を発した扇状地上に立地しています。今回の調査は（主）西脇篠山線味間工区道路改良事業に伴うもので、古墳時代から鎌倉時代にかけての幅広い時代の遺構と遺物が見つかりました。

古墳時代中期

竪穴建物跡２棟や土坑を検出しました。竪穴建物跡はいずれも平面形は方形です。そのうちの１棟にはカマドが１基付設しています。またもう１棟は焼失住居と考えられ、中央部に向けて放射線状に炭化した屋根材を検出しました。

奈良～平安時代

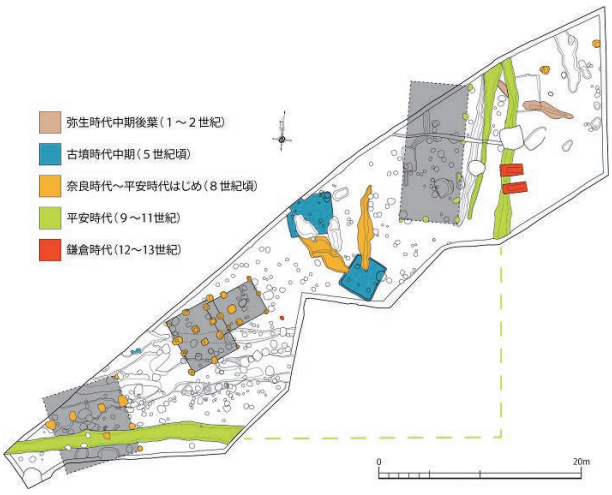
掘立柱建物跡２棟以上やピットが多数見つかりました。掘立柱建物跡の柱穴は、一辺 40 ～ 60 ㎝の方形です。今回見つかった建物跡は、いずれも総柱建物で、倉庫としての利用が想定されます。この建物に近接する土坑からは、須恵器蓋を転用した硯が出土しています。

平安時代末～鎌倉時代

溝や土坑、ピット、木棺墓が見つかりました。溝は直角に曲がる集落の区画溝であると考えられます。この区画溝の内側には円形ピットが多く見つかっており、掘立柱建物が建つと思われます。調査区北側では、この区画溝埋没後につくられた木棺墓が２基隣接して見つかりました。木棺墓からは白磁碗や鉄製短刀などが出土しました。

今回の調査によって古墳時代から平安時代にかけて長期間にわたり居住域として当地を利用していたことが分かりました。また、奈良時代の規模の大きい掘立柱建物群の検出は、西紀郡衙との関係性や役所的機能の想定を考える必要があります。また平安時代については、今回の調査成果から周辺につくられていたと考えられる味間荘（味間二品勅旨田）に関係する集落であった可能性も考えられます。丹波地域における地域の歴史を考えるうえで重要な成果を得たと言えるでしょう。

（調査第２課　園原悠斗）



調査区平面図

鎌倉時代の土師器と須恵器

土坑から出土した須恵器転用の硯

弥生時代後期～古墳時代中期の水路から土器が出土

曙町（あけぼのちょう）遺跡（神戸市西区曙町）

動画はこちら

曙町遺跡は、明石川西岸の沖積地に立地する集落遺跡です。300 m西側の段丘上には古墳時代中期の前方後円墳の王塚古墳（全長 74 m）があります。

令和３年度の発掘調査箇所に隣接する調査区から、古墳時代後期の竪穴建物跡や土坑、溝が見つかりました。

さらにその下からは、古墳時代中期の自然流路や、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての自然流路がみつかり、その中から土器が比較的残りのよい状態で出土しました。自然流路には田で必要な水を取水、排水する溝（用水路や排水路）が取り付きます。

これらのことから、弥生時代後期から古墳時代中期にかけては西側の段丘上など近隣の集落で暮らしていた人々が水路として利用していた自然流路に土器を残置した状況や、古墳時代中期後葉頃に自然流路が埋没し、安定した微高地となってから集落が営まれた様子がわかってきました。

（調査第１課　上田健太郎）

調査区付近から望む明石海峡方面（北西から）

土器の出土した水路と古墳時代後期の遺構（北西から）

水路から出土した古墳時代中期の土器

水路から出土した古墳時代前期の土器

水路から出土した弥生時代後期の土器

水路から出土した弥生時代後期の土器

日本海沿岸の有力家長の墓域

初瀬谷（はつせだに）・柏谷（かやねだに）古墳群（美方郡新温泉町七釜）

初瀬谷・柏谷古墳群は岸田川西岸の丘陵尾根線上に立地します。地域連携推進（道路改築）事業（(国）178 号浜坂道路Ⅱ期）に先立ち、発掘調査を行いました。

今回の発掘調査では、弥生時代後期後葉の墳墓（４号墓)、弥生時代終末期～古墳時代初頭（６号墳)、古墳時代前期前葉（１～３号墳)、古墳時代後期の古墳（５号墳)、合計６基と、これらに伴う埋葬施設 22 基を検出しました。空白期間はあるものの、当地が継続的に墓域として利用されていたことが明らかになりました。ここでは、主要な調査成果について紹介します。

４号墓

今回の調査でみつかった墓の中では最も古い弥生時代後期後葉のもので、尾根を削り出して成形した台状墓です。４基の埋葬施設がみつかっており、いずれの埋葬施設にも、木棺が納められていたと考えられます。

これらのうち、中央の第１主体部からは墓の上に供えられたとみられる弥生土器（壺（つぼ）・甕（かめ）・高杯（たかつき）・注口土器（ちゅうこうどき）・鼓形器台（つつみがたきだい））が出土しました。４号墓、さらに６号墳、１～３号墳から出土した、鼓形器台をはじめとする弥生土器・土師器（はじき）は、いずれも因幡（いなば）地域（現在の鳥取県域）で出土するものと形態が共通しており、当地に葬られた人々が、因幡地域と共通の文化圏にあったことを示しています。また、第１主体部横の第４主体部からはガラスや石を加工して製作された管玉（くだたま）が出土しました。

調査地点遠景（南東上空から、奥が日本海）

４号墓全景（写真上が西）

各墳墓・古墳の位置（北東上空から）

４号墓第１主体部の弥生土器（左上）と
同第４主体部の管玉（右下）

１～３号墳

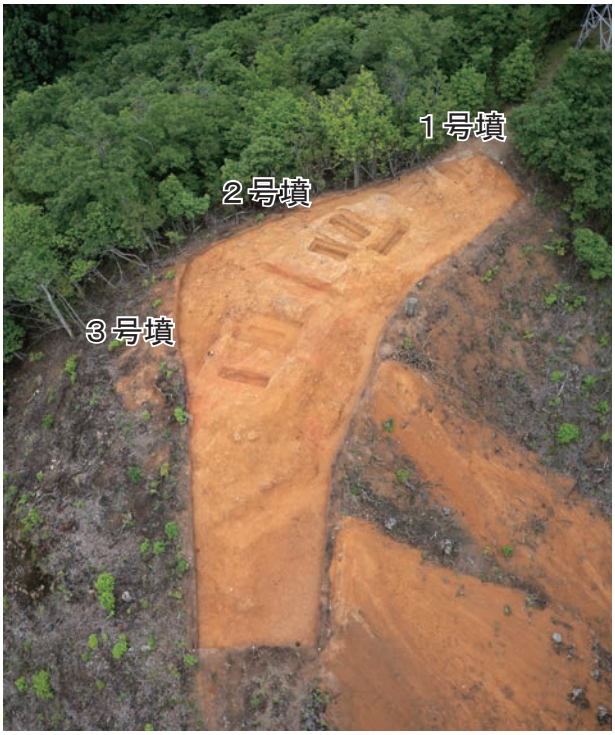
最も標高の高い場所では、古墳時代前期前葉の３基の古墳がみつかりました。いずれも尾根を削り出して成形されており、それぞれの古墳の間は溝で区画されていました。１号墳で１基、２号墳で３基、３号墳で２基の埋葬施設がみつかり、いずれにも木棺（もっかん）が納められていたと考えられます。

いくつかの埋葬施設からは、墓に供えられた土器がみつかったほか、２号墳の第１主体部からは鉄製武器（剣（けん）かヤリとみられる）が、その横の第２主体部からは青銅鏡の破片・首飾りとみられる玉類（ガラス勾玉（まがたま）・ガラス小玉・管玉）・鉄製品が出土しました。これらは、被葬者の頭の近くに置かれたものと考えられます。青銅鏡は、中国の後漢という国で製作された「内行花文鏡（ないこうかもんきょう）」と呼ばれる鏡の一部でした。また、同主体部と４号墓から出土したガラス製の玉類は、その原材料が国産のものではないなど、貴重な器物といえます。

一連の調査成果と、当古墳群が岸田川流域を一望できる見晴らしの良い場所につくられていることから、初瀬谷・柏谷古墳群は当該地域の有力家長とその近親者の墓である可能性が高いといえます。新温泉町、ひいては山陰から北近畿地方における弥生・古墳時代の地域社会や埋葬方法を考える上での貴重な発見となりました。

（調査第２課　稲本悠一）

鉄製武器の出土状況



尾根線上につくられた古墳群（写真下が北）

出土した破鏡・ガラス小玉（左上）ガラス勾玉（右下）

２号墳全景（西から）

集落の北端と中心を発掘

上戸田（かみとだ）遺跡（西脇市上戸田）

一般国道175号西脇北バイパスの建設に先立ち、発掘調査を令和元年度より断続的に実施しています。

今年度は、遺跡の北西端付近（1・2区）、以前の発掘調査で掘立柱建物跡や竪穴建物跡を検出した付近（3区）を調査しました。

調査の結果、1・2区では弥生時代後期の大溝1条、平安時代後期の溝、土坑、柱穴、素掘りの井戸を検出しました。

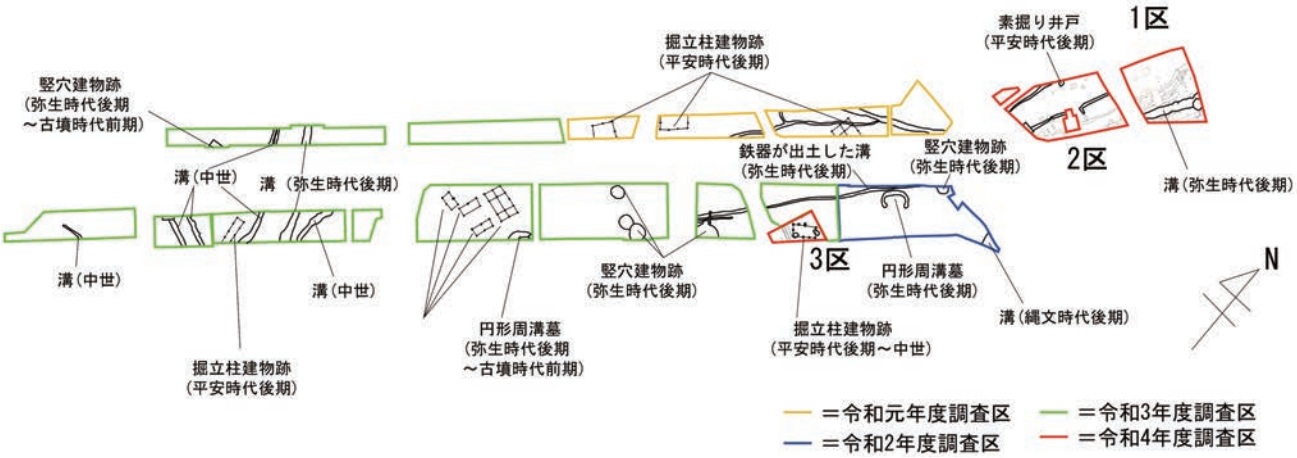
また、3区では2×4間の掘立柱建物跡を検出しました。掘立柱建物跡からは遺物はほとんど出土しませんでしたが、柱穴が円形で直径が40㎝弱であることから平安時代後期～中世の掘立柱建物跡と考えられます。

1・2区全景（北から）

これまでの調査でも、建物跡は3区付近の南側で検出されることが多く、1・2区付近ではあまり見つかっていません。そのため、集落の中心は3区より南側にあり、1・2区周辺は集落の端に近い場所であったと考えられます。また、遺構、遺物ともに弥生時代後期と平安時代後期、中世以降に偏りがあり、この時期に集落が作られ、それ以外の時期は別の場所で生活を営んでいたと考えられます。（調査第1課　青山　航）

2区溝から出土した平安時代後期の土器

3区掘立柱建物跡（北から）



上戸田遺跡調査区位置図

出前授業をお届けしました！
～発掘調査現場から近隣の小学校へ～　曙町遺跡（神戸市西区曙町）

６月上旬、曙町遺跡に近い２つの小学校へ発掘調査成果を出前授業しました。

過去の筆者の経験から、子どもたちが最も身近に感じて伝わりやすいテーマは衣食住ということで、今回は弥生時代と古墳時代でお米の調理方法が異なっていたことを紹介しました。

まず古墳時代の後半期には、お米を蒸して食べていました。鍋でお湯を沸かしてのぼる蒸気で、底に穴のあいた甑（こしき）にお米を布で包んで入れて蒸したのです。令和３年度調査で検出した竪穴住居跡にカマドがあり、今年度は甑の破片も出土しています。

一方、弥生時代には現在と同様にお米を炊いて食べていました。水路から出土した弥生時代後期の甕（かめ）には直接火にかけられて付いた煤（すす）や吹きこぼれの痕がよく残っています。

出前授業の様子

甕の吹きこぼれ痕

横で見ていた先生が「この前、飯盒（はんごう）でごはんを炊いた時、同じように吹きこぼれてたよね。」と言い添えてくれました。

昔の人の暮らしを肌で感じたときの子どもたちの表情を目の当たりにして、出前授業を実施してよかったと感じました。

（調査第１課　上田健太郎）

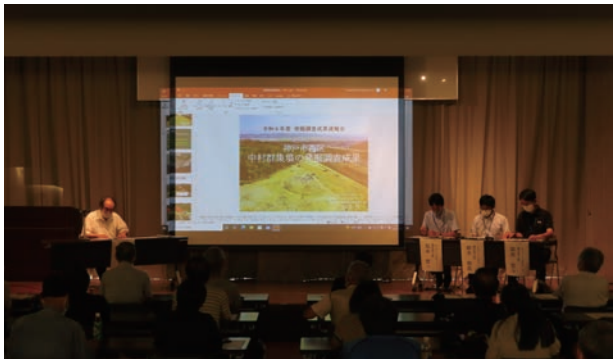
令和４年度発掘調査速報会

令和３年度に（公財）兵庫県まちづくり技術センターが行った発掘調査の成果について、調査担当者が報告を行う「発掘調査成果速報会」を７月 30 日に開催しました。速報会は、県立考古博物館の夏季企画展「ひょうご発掘調査速報 2022―五国の逸品－」に合わせて開催され、報告のあった遺跡から出土した遺物が展示されていました。

報告では、中村群集墳（神戸市西区）、玉津田中遺跡（神戸市西区）、住吉川右岸遺跡（丹波篠山市）の３遺跡について、それぞれの遺跡の調査担当者が資料を使い、調査成果から得た見解を伝えました。

報告の後は、県立考古博物館の和田館長と報告者との討論会です。来場者からの質問を基に、和田館長が３人の報告者へするどい指摘を行います。専門的な議論が交わされ、遺跡の考古学な評価が徐々に明らかとなりました。２時間半を予定していた速報会は若干の延長を行い終了しました。会場に来られた多くの方々に、考古学の議論を知って頂けるよい機会となりました。

（調査第２課　小川弦太）



討論会の様子

ひょうごの掘り出しもの ～第５回～

『南』から来た壺たち
－北摂地域出土の輸入陶器－

中世の輸入陶磁器と聞くと、皆さん白磁や青磁、明染付磁器を思い浮かべることでしょう。今回は目先を変え、北摂地域で出土した『南』から来た地味な陶器の壺を紹介します。

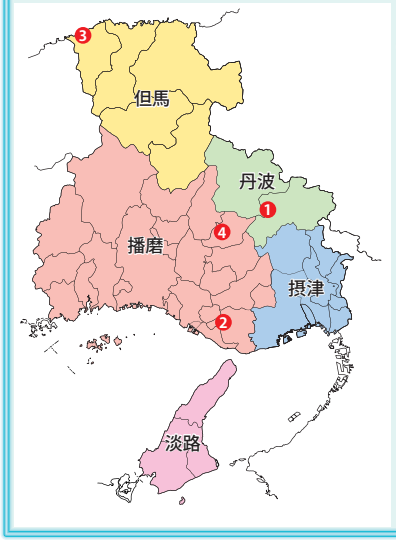
写真左列にあるずんぐりとした耳壺とスリムな長胴壺は 12 ～ 13 世紀頃に中国南方『華南（かなん）』からやって来ました。華南は広東省や福建省、海南省周辺を指します。耳壺は猪名川町猪渕（いぶち）遺跡、長胴壺は近接する広根遺跡から出土しました。茶葉などを詰められて海を渡り、河口の港から猪名川を遡って運ばれてきたのでしょう。壺の底が植木鉢の様に窪む碁笥（ごけ）底であることが特徴です。

写真右列の口縁部がまっすぐ立った長胴壺は 16 ～ 17 世紀頃にベトナム『越南』で作られました。チョコレート色でロクロ目が目立ちます。精製された粘土を使い、非常に薄く作られています。手前は神戸市北区日下（くさかべ）部遺跡から、奥は三田市三田城跡の堀から出土しました。ベトナム製壺は砂糖などを詰められて海を渡り、日本では花器としても珍重されました。

県下では華南産の盤（ばん）（12 世紀）や鉢（16 世紀）も出土しています。その他、中国各地、朝鮮の高麗や李朝、六古窯に代表される国内外各地の製品が流通しており、中世を通じて陶器の『品揃え』は思いの外豊富でした。

（整理保存課　西口圭介）

華南産の壺（左列）とベトナム産の壺（右列）



本誌に掲載の遺跡

1. 住吉川右岸遺跡　丹波篠山市味間
2. 曙町遺跡　神戸市西区曙町
3. 初瀬谷・柏谷古墳群　新温泉町七釜
4. 上戸田遺跡　西脇市上戸田

編集後記

本号では、令和３年度下半期と令和４年度上半期に行われた発掘調査や出前授業、発掘調査速報会を紹介しました。

今後も魅力的は発掘調査が予定されています。次号以降で最新情報をお知らせしていきます。

（調査第２課　鈴木郁哉）

『ひょうごの遺跡』バックナンバーはこちら！

https://www.hyogo-koukohaku.jp/modules/book/index.php?action=PageList&category_id=3

https://www.hyogo-ctc.or.jp/iseki/

1 ～82号　考古博物館ＨＰ

83号～　ＣＴＣ ＨＰ

公益財団法人 兵庫県まちづくり技術センター
Hyogo Construction Technology Center for Regional Development

2206埋2Ａ4